



介護者負担の軽減を目指し AIによる予測を用いた 「排泄」ケアシステムの開発

う い よ し み
宇井 吉美

株式会社aba 代表取締役 (令和元年12月6日時点)

宇井氏は、家族介護者となった経験から「介護者側の負担を減らしたい」という想いを持ち、千葉工業大学在学中に介護者を支援するためのロボット開発を行う「学生プロジェクトaba」を始めました。

排泄センサーを製品化 において尿と便を検知する「Helppad(ヘルプパッド)」

(平成28年度・29年度「総務省ICTイノベーション創出チャレンジプログラム(I-Challenge!)」にて開発助成)

ベッドに敷くだけで
排泄を検知



ケアスタッフへ通知
適切なおむつ交換が可能



排泄パターン表の自動生成
オムツ交換の最適化



全体写真



使用シーン

夜間帯や、寝たきりの
要介護向けの製品として
2019年より販売開始

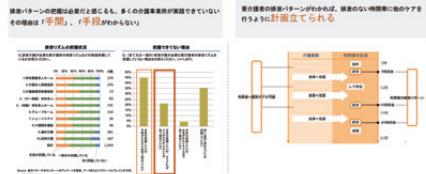
■ 社会背景 - 介護現場の課題 -

人手不足の介護現場を支えるのは、介護未経験者たち



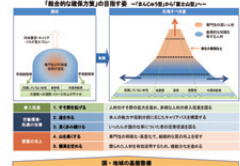
未経験者でも介護ができるようになれば、
人手不足解消、採用費・研修費の削減、離職防止につながる

■ 排泄パターンの把握は実践困難だが、パターンの可視化は可能



■ 社会背景 - 介護現場の課題 -

人材不足解消のため、人材の裾野を拡大することは「若年者も介護」「専業主婦」から「富士山型」へ



■ 介護の中でも個別性が求められるのは排泄ケア

排泄ケア：介護者にとって負担が大きく、個別性が求められる



■ 介護者支援システム：排泄を基軸とした介護業務全体の最適化

個別性の高い排泄ケアに合わせて介護計画を立てることで、業務効率化だけでなく、様々なケアの質がより良くなる



■ 実証実験現場の拡充（特区設置を含む）

現在の介護実践制度では、おむつ交換したくても行きにくい状態が発生している（おむつ交換1回につき、いくらかの計算に基づき、ケアプランが立てられている）

